

東地区集楽環境保全会（岐阜県下呂市）

「“ひがし”でできるんだったら、うちでもできるんじゃないか〜」って、世界中の人に言わせてみたい！

背景

飛騨地方最南端に位置する下呂市金山町東地区は、地区の中央を南下する清流「馬瀬川」沿いの河岸段丘に形成された10の集落から構成されている。

かつては林業や製茶、製糸業が盛んであったが、進学や就職を契機とした若年層の流出により人口減少と高齢化が進展。平成20年代半ばになると獣害の深刻化や畦畔管理が担い手の農業経営を圧迫するようになり、非農家も参加して集落環境の保全に取り組む機運が共有されてきた。これを受け、集落ごとのワークショップを積み重ね、平成26年11月、地区内の全戸（約500戸）が参加して「東地区集楽環境保全会」（以下「保全会」）を設立した。



取組概要

保全会の設立により「2階建て集落営農方式」による取組を開始。1階部分を担う保全会が集落環境を守ることで、2階部分の担い手の営農を支援している。

平成29年には、新規就農による担い手の確保に向け、地区内農地の利用調整を行う「（一社）ひがし村」を設立し保全会の構成員とした。これにより、保全会が主体となって、条件の良い農地や空き家を新規就農者に仲介するとともに、一定の所得が見込まれる「飛騨トマト」の施設栽培での就農を推進。これまでに5名が新規就農しており、技術的な支援だけでなく、地域との付き合い方もしっかりとフォローすることで、安定した取組となっている。また、（一社）ひがし村では、耕作放棄地を解消した農地での飼料作物やエゴマの栽培にも取り組むとともに、更なる人口減少を見据え、水稻のドローン防除の開始や農地管理等への、ほ場管理システム導入により、スマート農業にもチャレンジしている。

廃校となった東第一小学校を「持続可能な地域運営の拠点」として活用するため、下呂市と保全会とで利用協定を締結。定期的に廃校活用検討会を開催して具体的な活用方法を検討。毎週日曜日には若い世代が中心にアイデアを出し合って楽しみながらカフェの運営を行うほか、マルシェ、夏祭りなど、様々なイベントの開催を通じて地域内外の交流を促進している。

若い世代の視点を活かした活動の促進と関係人口の創出を目指して、令和3年から「ふるさとワーキングホリデー」の受け入れを開始するとともに、令和4年には日本福祉大学と関係人口連携協定を締結。学生たちは、この地での滞在・活動を通じて、地域住民との交流を深めており、将来の関係人口として継続することを期待している。また、東地区を拠点に活動した2名の地域おこし協力隊員は、任期終了後に定住。岩屋ダムでのカヤックツアーや空き家を活用したボルダリングジムなど、地域資源を活用した新たな発想で起業し、地区内外の交流促進に貢献している。

今後の展開

今後は、営農関係の新法人の設立やUターン者の新規就農に向けた支援のほか、農業外での起業についても支援。また、関係人口案内所の設立、隣接集落と連携した移住イベントなど、東地区の活性化に向け、更なる活動のステップアップにより、地域の維持・発展を目指す。

写真で見る団体の取り組み



水路の土砂上げ



トマト栽培の新規就農者



活動拠点となる旧東第一小学校



廃校での「骨粗しょう症のお話し会」



大学生の参加で3年ぶりに復活した神社の例祭「お旅」



空き家を改修したボルダリングジム